専門医が診る

読者からの質問編

白血病（1日掲載）について読者から寄せられた相談や質問に、広島赤十字・原爆病院血液・腫瘍治療センター（広島市中区）の許泰一センター長に答えてもらった。（松本大典）

回答
広島赤十字・原爆病院
血液・腫瘍治療センター
許泰一センター長

白血病の抗がん剤治療

2週間に1度輸血 体中しんどい
鉄たまり心臓に負担

Q 3年前に骨髄異形成症候群（MDS）になり、2週間に1度、輸血を受けています。とにかく体中がしんどく、歩くのもつらいです。身長140㌢余りで、体重は10㌔以上減って30㌔そこそこになりました。心臓も弱くペースメーカーをつけています。輸血を続けて大丈夫でしょうか。（尾道市・無職女性・75歳）

A 輸血は続けるしかありません。ただ、小さな体で3年も輸血をしていれば、慢性鉄過剰症になっていると考えられます。輸血に伴う合併症で、血液に鉄がたまって心臓や肝臓の働きが落ち、だるさの原因になります。もともと心臓が弱い患者であれば自覚症状はなおさら強いのではないかと思います。

血液検査で血清フェリチンの値を調べてみてください。一定に高い数値であれば、鉄分を体の外に出す働きを助ける鉄キレート剤を飲むと、かなり楽になるはずです。湿疹や腎障害などの副作用もありますが、少量から飲み始めると安心です。

妊娠中「MDS」と診断
輸血急ぎ早期出産を

Q 妊娠中の23歳の娘が骨髄異形成症候群（MDS）だろうと診断を受けました。胎児への影響を考えてMDSの治療をせず出産に備えています。ヘモグロビンや血小板の数値は下がり、動悸やめまいを繰り返す状態ですが、輸血にも踏み切れずにいます。大丈夫でしょうか。（三原市・病院勤務女性・49歳）

A すぐに輸血に踏み切るべきです。今の輸血は感染症などのリスクが低く、極めて安全です。このまま輸血を受けずに出産に臨む方がよほど危険です。

胎児はできるだけ早く出産した方がいいでしょう。無事生まれたら、娘さんには骨髄移植を受けることを勧めます。23歳であれば移植によって良くなる可能性は十分にあります。

MDSの診断は、採血や骨髄検査ではっきりします。2年以内に亡くなるハイリスクなものまでタイプは幅広く、「だろう」で済ませずきちんと見極める必要があります。

安心・安全

錠剤だけでは不安
処方量増やす相談必要

Q 昨春、慢性骨髄性白血病と診断され、タシグナ（一般名・ニロチニブ）という150㍉㌘の錠剤を1日1回飲んでいます。副作用もなく元気で過ごしていますが、無菌室での点滴による抗がん剤治療をしなくてもいいのか不安です。体重37㌔の体力のない高齢者には難しいのでしょうか。（福山市・無職女性・68歳）

A ニロチニブは、慢性骨髄性白血病の治療を飛躍的に進化させた分子標的薬イマチニブの改良版の一つで、これらに勝る抗がん剤治療はありません。きちんと飲み続けていれば、長生きできるでしょう。

ただ、1日150㍉㌘はちょっと少ないような気がします。私は通常、倍の300㍉㌘を処方します。小柄なので200㍉㌘でも大丈夫でしょうが、増やした方がいいと思います。

この病気で怖いのは、白血病細胞が変異し、急性に転ずることです。薬の量を増やすことで、そのリスクも減らせます。食欲不振や肝障害などの副作用がありますが、8割方はひどくありません。専門医と相談してみてください。

遺伝が心配
子や孫への影響なし

Q 2年前に慢性リンパ性白血病と診断されました。父は被爆者ですが、そのことが関係しているのでしょうか。子や孫に遺伝しないかと不安でいっぱいです。1日付の記事では、10年後の生存率は9割以上とありましたが、完治も望めるのでしょうか。（三原市・事務職女性・54歳）

A 被爆と白血病の関係については詳しいことは分かりませんが、遺伝とは関係ありません。お子さんやお孫さんに全く影響はないでしょう。

慢性リンパ性白血病はもともと欧米で多くみられ、最近になって日本でも高齢者を中心に増えています。欧米型の食生活が関係しているともいわれます。

50代の若さでの発病は不運ですが、進行は緩やかで急に悪くなることはないでしょう。ただ、完治は望めません。多くは年1回程度の検査で経過を見ていれば大丈夫なので、一生付き合っていくものと受け入れることが大事です。